

日刊 勤労千葉

82.9.14

No.1146

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)公衆電話(22)七二〇七

声明

革マルの 北原事務局長にたいする悪らつ なデッチあげ攻撃と 反対同盟破壊策動を 怒りをこめて弾劾する！

勤労千葉闘争委員会は、三里塚二期工事をめぐる現在の重大な攻防局面の中で、革マルが北原事務局長に対して悪らつで卑劣きわまるデッチあげとデマ攻撃をくゆえ、警察権力と結託して三里塚芝山連合空港反対同盟破壊攻撃をおこなっていることに対して、激しい怒りをこめて弾劾する。

革マルの悪らつなデッチあげ攻撃の目的と収らひは完全に明らかである。勝利の基本路線を堅持し政府・空港公団・警察権力の総力をあげた二期着工攻撃に成田用水推進策動をテコとする同盟切り崩し攻撃と不屈の闘いを貫いている反対同盟を破壊し、労農連帯と三里塚闘争総体を破壊せんとするものである。

ゆが勤労千葉は、勤労「本部」革マル反動分子のあらゆる組織破壊攻撃をうち破り、勤労「本部」から訣別し職をかけて闘う決戦ストライキを闘いぬき、三里塚闘争勝利を期して労農連帯を貫いてきた者として、今回の革マルの卑劣なデッチあげと三里塚闘争破壊攻撃を絶対に許すことはできない。そもそも革マルと勤労「本部」革マル反動分子は、これまで一貫して三里塚闘争破壊と勤労千葉組織破壊攻撃に、警察権力・国鉄当局と一体となって、総力を投入してきた極悪の反動集団である。「戸村は権力のスパイ」「鉄塔破壊は権力と北原の密約」「三里塚闘争は権力の演出」「関川、中野は金をつかまされてジェット闘争を裏切った」等々聞くにたえないデマにつぐデマをつぎつぎとデッチあげ、権力の意を体しその先女となって闘争破壊に熱中してきた連中である。

勤労千葉に対しては労農連帯を闘うゆえをもって、七九年4月津田沼支部への武装襲撃を加えて片岡支部長に頭蓋骨骨折の重傷を負わせ、八〇年4月には、津田沼電車区における春闘スト前夜総決起集会への暴力的襲撃と布施執行委員の首切り処分要求をおこなない、81年ストライキに際しては公然とスト破りをおこなった。さらに「6.12暴力事件」をデッチあげて10名の勤労千葉組合員を警察にタレコミ、告訴するなど、文字通り警察・当局と一体となった組織破壊攻撃をおこなってきた。

国鉄労働運動においては「水本謀略運動」なるデマ運動を勤労組合員に強要し勤労をマシスト的運動に変質させ、今日の臨調「国鉄労働運動解体の大攻撃」に対しては「ブルトレ問題」での大裏切りをはじめ「働こう運動」をもって自民党と国鉄当局と結託し、国鉄労働運動解体攻撃の先女となっているのだ。

いまや、全ての闘う労働者人民にとって、革マルがナチスばりの「デマゴギー」集団であり、警察権力の先女としての闘争破壊者であることは誰の目にも明らかなのだ。三里塚闘争と労農連帯の破壊を唯一の目的にした今回の革マルの「北原事務局長が5月18日成田警察警備課長と密会」なるデッチあげ攻撃の反動的謀略的収らひを瞬時にみぬき、怒りをこめて弾劾し、うちくだかなければならぬ。情勢は明らかに「三里塚」と「国鉄」をめぐって重大な決戦情勢に突入している。日帝支配階級は権力の先女「革マル」を全面的に投入し、三里塚闘争を圧殺し、国鉄労働運動を解体して、軍事大固化と憲法改悪を頂点とした大反動攻勢にふみこんできているのだ。

ゆが勤労千葉は、革マルの「デマ」攻撃を粉碎し、成田用水攻撃をテコとした条件派づくり「同盟破壊攻撃」と不屈に闘いを貫いていく三里塚芝山連合空港反対同盟と固く連帯し、10月三里塚現地総決起集会に組織の総力をあげて決起することを宣言する。

右、声明する。

一九八二年九月十四日

国鉄千葉動力車労働組合闘争委員会